

設備投資計画

エスケーエレクトロニクス、フォトマスク事業に3カ年で224億円の設備投資、新工場は先送り

㈱エスケーエレクトロニクス(京都市上京区東堀川通り一条上ル堅富田町436-2、Tel.075-441-2333)は、2027年9月期に330億円(24年9月期実績は257億円)の売り上げを目指す中期目標を公表した。大型有機ELを中心にフォトマスク事業の拡大を目指すほか、RFIDなどのソリューション事業の黒字化を目指す。

同社は23年9月期に中期経営計画を発表したが、市況の変化を踏まえて適宜見直しを行う方針を示している。24年9月期は市況悪化でマイナス成長に陥ったことから、それを踏まえて25年9月期からの3カ年の見通しを改めて示した。

FPD市場は今後、年率2%のペースで成長するとみており、なかでも有機ELのG8.6ラインの稼働が進むことや車載向けの採用拡大が成長エンジンになるとみている。フォトマスク事業は過半が有機EL向け、中国市場向けになりそうだ。

また、新規事業として取り組むソリューション事業の収益化を目指す。RFID事業は引き合いや受注が増加しつつあり、本格採用に向けた動きもあって期待している。婦人科検診用のデジタルコルポスコープも、地域のクリニック向けに販売が伸びている。中期計画ではM&Aおよび新規事業向けに80億円の投資枠を設定しており、既存事業のさらなる深化や新たなテーマの探索を行う。M&Aは同社の事業とシナジーが見込めつつ同じ業界を避け、かつニッチな領域をターゲットとして対象を探す方針だ。

フォトマスク事業への設備投資は、3カ年で224億円を計画する。滋賀工場(滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘38)の遊休地に新工場の建設を検討していたが、建設費の高騰が想定を上回っているため向こう3年間での建設は見送った。当面は既存工場内でのフォトマスクの高精細化対応や生産性向上に注力し、増強のタイミングを検討していく。

リンクメッド、15億円の資金調達を実施、工場の立ち上げなどに充当

リンクメッド㈱(千葉市稲毛区小仲台2-6-1)は、シリーズBファーストクローズとして15億円の第三者割当増資による資金調達を実施した。今回の調達を含めた累計調達額は、約26億円となる。

同社は放射性医薬品の開発を行っている。がんに対する放射線治療や化学療法では、治療効果が十分でない、正常細胞に対する副作用が大きいといった問題がある中で、こうした問題を克服する「放射性同位体 ^{64}Cu (銅-64)」を用いた放射性治療薬を開発してきた。 ^{64}Cu は、がん細胞のDNAを高いエネルギーで効果的に攻撃できるため、高い治療効果が得られ、がん特異的に結合する様々な分子に結合させることが可能で高い効果と副作用の低減が期待される。さらに、陽電子を放出するため、陽電子放射断層撮影(PET)診断でがんへの薬剤集積を確認しながら治療できる。

そうした中で、同社の開発1号品である ^{64}Cu -ATSM(LM001)については、悪性脳腫瘍の中でも最も治療が難しい再発・難治性悪性神経膠腫の患者を対象にランダム化比較第Ⅲ相医師主導治験(STEP-64試験、試験番号NCCH2301)が24年6月から開始されている。

また、 ^{64}Cu を用いた放射性医薬品の国内にお